

うさぎの ブランコ

2024.3

47

はる号



【開催報告】

令和5年度 第3回事例検討会
「障害のある子どもに関わる支援者とリハビリテーション専門職のネットワーク」

令和5年度 第4回事例検討会
「京丹後市における健康づくり・介護予防とリハビリテーション」

令和5年度 丹後圏域地域リハビリテーション実践交流会 お気軽サミット



【今回の表紙】

令和5年度 丹後圏域地域リハビリテーション実践交流会 お気軽サミット
詳細については5ページ参照

LINE 公式アカウント

友だち 募集中

@513gckqy

主催研修会情報、
活動紹介等の最新情報
を発信します

丹後圏域地域リハ支援センター公式LINE



令和5年度 第3回事例検討会

「障害のある子どもに関わる支援者と リハビリテーション専門職のネットワーク」

日時：令和6年1月25日（木） 16：30～18：00

会場：WEB（ZOOM使用）

参加者：37名

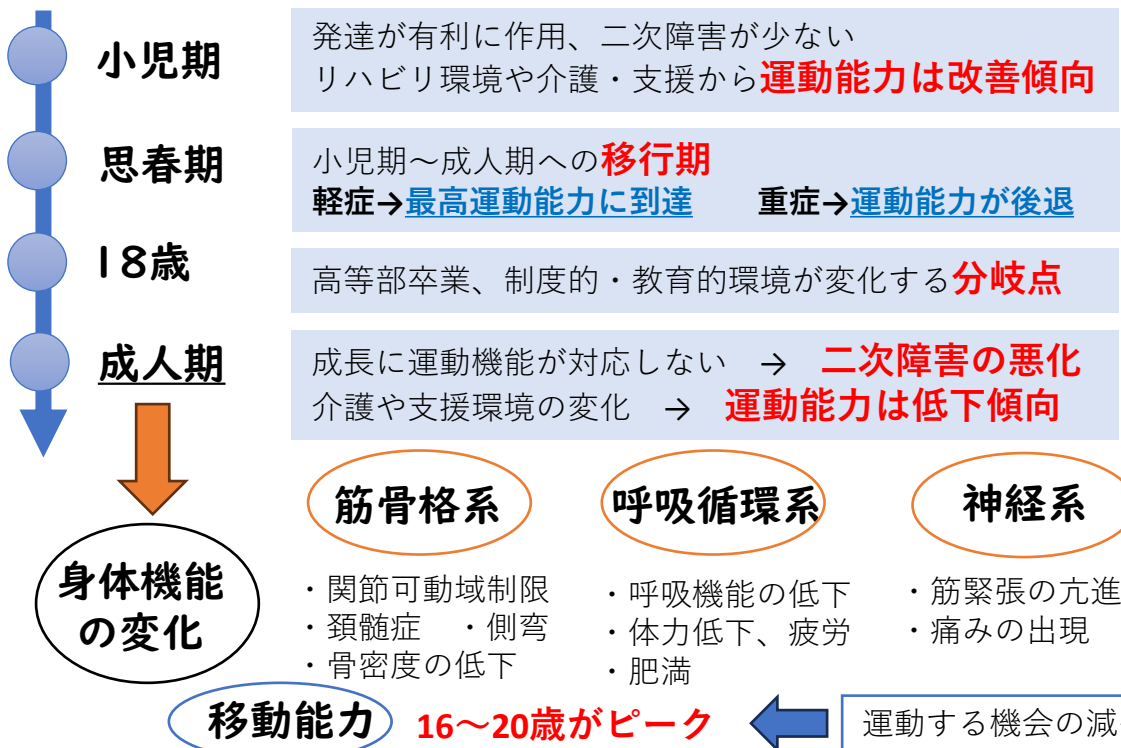
「訪問リハビリテーションにおける 小児疾患に対する成人移行期支援の試み」

講師：京丹後市立弥栄病院
訪問リハビリテーション事業所
理学療法士 今西美由紀氏



在宅におけるリハビリテーションに関わる制度や小児疾患の各発達期における課題、成人期における身体機能の変化、成人移行期における課題についてご説明をいただきました。また、ケースを通して訪問リハビリ導入までの経過、在宅における訪問リハビリの経過について発表をしていただきました。

小児疾患の各発達期における課題



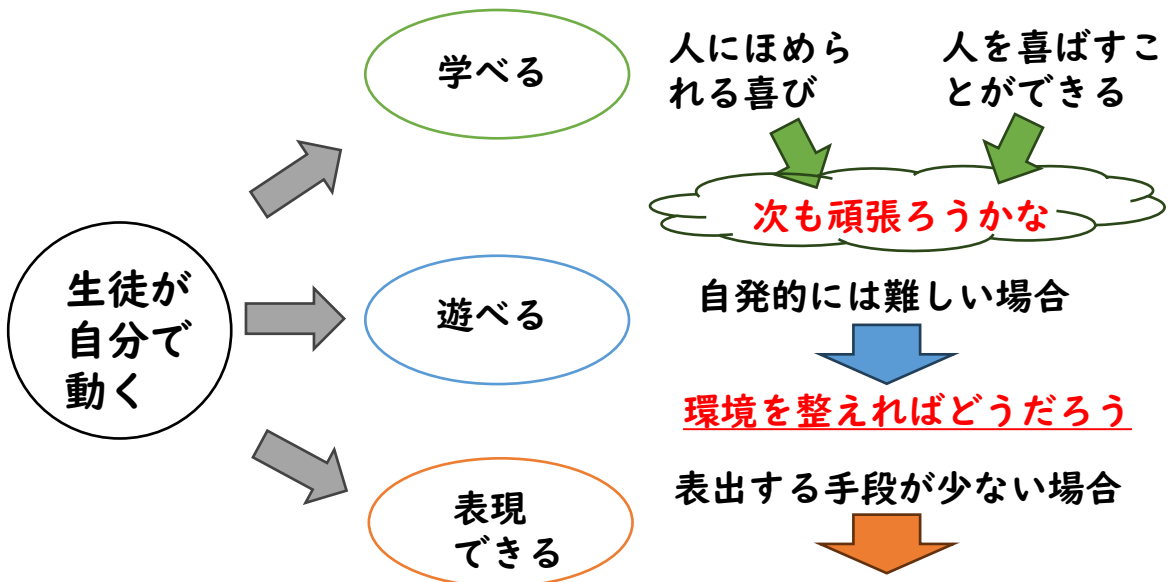
「私もやってみたい！」

～アイデアと協力があれば～

講師：京都府立与謝の海支援学校
教諭 宇治橋美秀 氏



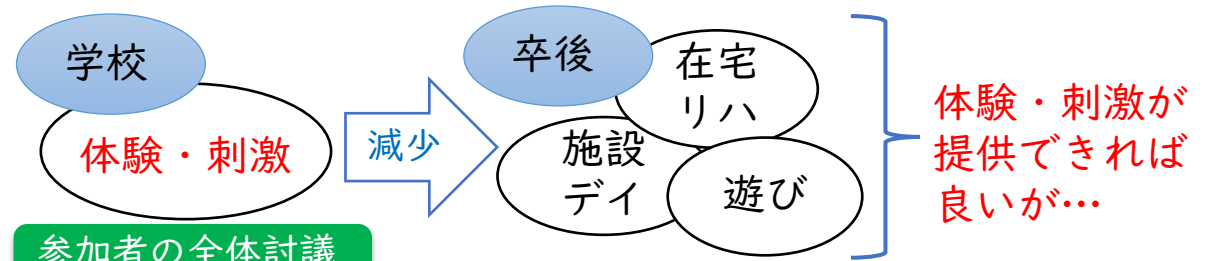
与謝の海支援学校の生徒が自分で動くことで、学べる、遊べる、表現できることを体験するための取り組みとして、動画を通してご紹介いただき、なぜ自分で動くことが必要なのか発表していただきました。



参加者の感想

表現できる手段を提供すればどうだろう

- ・お二人とも試行錯誤をしながら熱心に取り組まれている様子がよくわかって、とても私自身の刺激になりました。手探りでもいろいろ試す知恵と勇気と熱意が必要だなと感じました。
- ・支援学校での工夫を凝らした支援がよく分かったとともに、卒業後のフォローを地域全体で考えていかなければならないと改めて思いました。
- ・ひとりの子供さんの将来を考えていくうえで、支援（医療・福祉）の内容や考え方等参考になる内容でした。
- ・小児に関わる職種として、他院での関わり方や取り組みなどを実際にお聞きすることができ、とても勉強になりました。
- ・学校から、卒業した後の繋がりが難しいと聞いたことがあったので、そのあたりも今後知りたいです。
- ・どちらの報告も本人の「楽しみ」や「意欲」を引き出す内容で、他児の支援に活かせることが多く、大変参考になりました。



参加者の全体討議

- ・生徒の卒業後の生活の方が長いですが、卒業すると学校は関わりにくい。
- ・進路先とつながって、生活の基盤において地域に根差した関わり方ができれば、地域での関わりでサポートができれば…。
- ・在宅では集中できなかったり、本人のペースになりやすい。
- ・どんな活動が本人の機能を引き出せるのか、いろいろな活動から探っていきたい。
- ・小児リハとして、楽しんで動く・学ぶことを試しているのは支援側にとっても良いことと思う。
- ・楽しんでいることで目標達成できる、楽しみややりがい機能が改善につながる。
- ・小児リハの経験は少ないが、試行錯誤しながら対応しています。
- ・卒業後の関わりとして、体験・刺激は学校などが提供できない。施設後のデイの利用や、在宅での介入、遊びの中から活動・体験・刺激が得れば…
- ・以前よりも生徒ができることが目に見えて上達している様子が見れた。
- ・卒業に向けて、生徒の日常、日中の体験についてどうなるか、変化することで体験する機会が得られると良いが…。

令和5年度 丹後圏域地域リハビリテーション実践交流会 お気軽サミット

日時：令和6年2月19日（月） 15：00～17：00

会場：丹後保健所講堂・WEB（ZOOM使用） 参加者：55名（オンライン28名）

実践交流会の目的

多機関多職種の地域リハビリテーションの実践交流をとおり、丹後地域の急性期から回復期、維持・生活期まで継続した総合的なリハビリテーションサービスの提供に向け、リハビリテーション提供体制の充実と、リハビリテーションの質の向上を図る。

今年度は3か所の事業所より、6名に実践報告をしていただきました。

実践報告①

「看多機しずちゃんハウスオープン物語 一人ひとりの個性が輝く地域づくりに挑戦中」

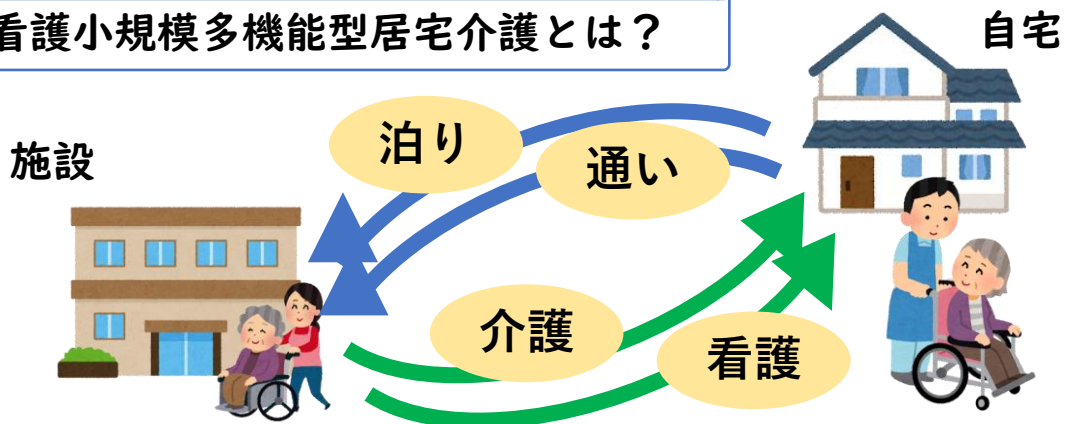
発表者：しずちゃんハウス
岡野光朗氏（理学療法士）

藤田拓志氏（介護福祉士）



柳川朱美氏（介護支援専門員・准看護師）

看護小規模多機能型居宅介護とは？

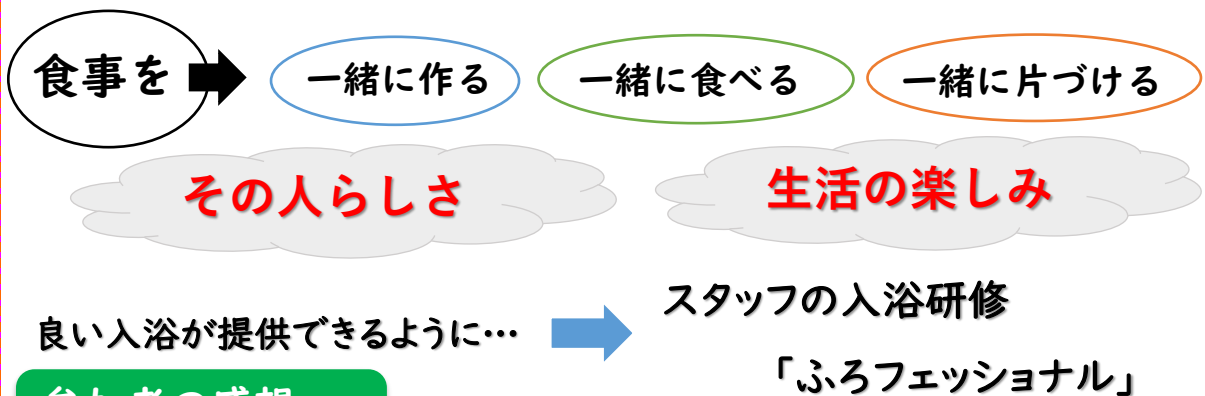


「訪問看護」と「小規模多機能型居宅介護」を組み合わせたサービス

しずちゃんハウスの理念

- 介護が必要になっても住み慣れた地域で最期まで安心して暮らすサポートをします。
- 看護、介護、リハビリが連携して、訪問、宿泊、通いのサービスを適宜提供していきます。
- 生活の楽しみ、家族との時間、その人らしさを大切にします。

誰もが行う食事、入浴、排泄などの日課の中で、**その人らしさ**があり、しずちゃんハウスではどのようなサービス提供を行っているのか紹介していただきました。



参加者の感想

- ・看多機の施設のお一人お一人への寄り添い方はとても勉強になりました。
- ・病院では 調理訓練など行いにくいので 非常に羨ましく思いました。一緒にすることで達成感など得られて、機能も気持ちも向上しそうです。
- ・利用者と家族に寄り添い、望まれる生活を叶えてあげたいという気持ちが伝わりました。看多機という強みを活かして在宅生活を支える一翼を担って頂きたいです。
- ・地域のサービスが必要な方々にとって理想的な形だと感じた。もっと看多機が増えていくといいと思った。
- ・利用者様との関わり方や本当の心境をお聞きするテクニックは参考になりました。

実践報告②

「利用者に自信と笑顔を

～チームあけぼの荘の新たな取り組み～

発表者：不動園あけぼの荘
介護支援専門員：松本章子氏

介護福祉士：吉田智恵美氏



あけぼの荘での新たな取り組みについて報告していただきました

あけぼの荘が
直面している課題

建物・設備

古い

狭い

移動が
大変

役職者の交代・
職員の入替わり

サービス面

徹底的な改革・職員教育

モチベーションの
維持が難しい

質を高める
取り組み開始

利用者が楽しい ↔ 職員のモチベーションアップ

脳トレ

歩行訓練

作業

ポイントカード形式
取り組み後にシールを貼付

参加者の感想

- ・試行錯誤しながらされている様子が参考になりました。小規模ならではの良いところと悩みがなるほどと思いました。
- ・利用者さんの「やる気」に繋がった支援だと思います。個別支援では、今後もリハセンさんに相談やお力をお借りして、利用者さんの機能向上、やる気の継続のお手伝いをしたいと思います。
- ・ハード面やソフト面での課題を、アイデアと工夫で改善しようと努力しておられる姿勢は素晴らしいです。そういう姿勢は利用者や家族にも「見えて伝わる」ので、きっと選ばれる事業所になられると思います。

実践報告③

「半日リハビリ特化型デイサービスにて 移乗動作の介助量軽減を目指した症例」

発表者：リハすぎけん
理学療法士：糸井康夫氏



リハビリ特化型デイサービスとは？

『機能訓練指導員（理学療法士や看護師などの有資格者）が中心となって、身体機能の維持や回復のための訓練を提供する施設』

提供
なし

入浴・食事
など

提供
あり

半日の大半の時間
**身体・頭・心の
リハビリテーション**

身体のリハビリテーション

マシン運動

ボール体操

プレミアムジム

頭・心のリハビリテーション

運動前の脳トレ

まったりカフェタイム

理学療法士としての携わり

- ① 身体評価による経過観察、運動メニューの構築
- ② 個別リハビリテーションの介入、自主トレーニングの提案
- ③ 福祉用具の選定の助言
- ④ 介助方法の訪問指導

参加者の感想

- ・自宅で介助方法の指導は、同居家族さんにとって心強いと思います。個別でのリハビリは、対象の使用者さんにとって頑張れるのではないかと思います。
- ・リハ特化型のリハ職の業務内容がよく分かり勉強になった。予想以上に個別での関わりを深く取り組まれていて素晴らしいと感じた。
- ・半日リハビリデイはリハビリメインで、在宅サービスにおいて「生活」と少し離れた所にあるイメージがありました。しかし今回紹介された比較的介護量の多い利用者の在宅生活を支える為に、リハビリデイとしての役割を見事に果たしておられると思います、在宅支援において様々なアドバイスが頂けると感じました。

令和5年度 第4回 事例検討会

「京丹後市における健康づくり・介護予防と リハビリテーション」

日時：令和6年3月6日（水） 14：00～16：00

会場：丹後保健所・講堂 参加者：21名

目的

- ・京丹後市の健康づくり・介護予防関係者が、地域リハビリテーション事業について、知ることができる。
- ・リハビリテーション専門職が京丹後市の健康づくり・介護予防事業について知ることができる。

報告①

「京丹後市地域介護予防支援 介護予防体操事業について」

講師：京丹後市 健康長寿福祉部 健康推進課 保健師 橋本真希氏



京丹後市における課題を通して、介護予防事業として行っている「丹後のびのび体操」の取り組みや現在の課題について発表していただきました。

京丹後市の課題

- ①高齢化率が高い
- ②平均余命と平均自立期間の差が大きい
- ③筋・骨格啓による医療費が高い
- ④要支援者・要介護者の増加
- ⑤要介護の要因として高齢による衰弱、骨折・転倒が上位を占めている

運動・栄養・人との交流
ができるような取り組み

介護予防体操事業
「丹後のびのび体操」

身体機能・健康の
維持・向上

目 標

地域の高齢者

事業に
参加

主体的に
参加

担い手として…

情報交換・全体討議

「参加者の京丹後市の健康づくり・介護予防事業を考える」

地域が抱える健康づくり・介護予防の課題や、現状での取り組みなどについて話し合いを行い、様々な情報や意見交換ができました



通いの場

京丹後で作っていく
必要あり

参加率 → 京都府は低い

高齢化 → 移動手段がない人が多い

担い手にはなり

たくない 次の担い手不足

健康な高齢者を
増やすには…

介護予防
事業

参加するの
は良いが…

『のびのび体操』

地域共生ステーション
8つの拠点

運動予防だけで
なく、閉じこも
り予防も必要

来てくれない
人への対応

久美浜町

地域にジムがあり、
高齢の方も通っている

様々な活動を
している

家族内では支えきれず、
地域全体でのサポートが必要

趣味活動

生きがづくり

京丹後市

サービスCを行っていない

C型へ移行する
対象者への関わり

リハ職の活用ができるのでは

上記のように様々な意見や課題がみえてきましたが、地域での介護予防の周知や参加に向けた対応、次の担い手づくり、リハビリ職の活用について、今後も継続して、課題の分析を行い、様々な職種が各々の役割を考えていきます。

参加者の感想

- ・自分たちの視点だけではわからない地域性や社会資源、現状を知ることができ事業の課題や他の課の課題などから解決に向けて必要なことが学べました。
- ・京丹後市の中で介護予防に関わる方が多くいること、またその内容について今回知ることができて、非常に参考になりました。
- ・会議の中でも検討されていた「リハ職として何ができるのか」ということに関して、自分が思っていたこととはまた違う視点で出された意見等も多く聞くことが出来て良かったと思います。
- ・多職種の仕事を知る事が出来て良かったです。地域の資源をしっかりと理解していない事にも気が付きました。活動参加へつなげる為にも地域の特性を知る事も必要と感じ、セラピストとしての私だけでなく地域の活動にも参加する事も必要と思いました。

編集後記

今年度の最後の事業も終わり、令和5年度最後の『うさぎのプランコ』となります。1年間継続して広報誌の作成を行い、多様な講師や発表者の紹介をさせていただきました。今年度のリハセンの従事者支援ではこどもに関わる支援者からの依頼が多く、支援学校と関わりのある事例検討会も開催できました。その中で多職種や丹後のリハ専門職同士での関わりとして、高齢者だけでなく、小児や障害を抱える方への支援においても、より一層地域全体で連携を図っていくことが必要だと感じました。(H.S)

編集/発行：丹後圏域地域リハビリテーション支援センター(公益財団法人 丹後中央病院)

連絡先：TEL0772-62-8301 FAX0772-62-8302 e-mail tango-rehabili-shien@tangohp.com

「丹後地域リハ」で検索！

